

「第 7 回製剤機械技術学会仲井賞若手研究者奨励賞」 受賞者の選考結果について

The 7th NAKAI Young Investigator's Encouragement Award of the Japan
Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長代行 岡本 浩一
Hirokazu Okamoto

Sub Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より「仲井賞」を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。2017 年 1 月に本会名誉会長仲井由宣先生がご逝去されました。製剤機械技術学会は仲井先生のお持ちであった本会創設にあたっての理念、目標を継承、発展することを目的とし、新たに「仲井賞若手研究者奨励賞」を設け、基礎研究、応用研究、または技術開発を通じて優れた業績を上げた満 45 歳以下の会員を表彰することにいたしました。

仲井賞選考委員会において、応募内容について、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 7 回製剤機械技術学会仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

記

・ 受 賞 者：門田 和紀（大阪医科薬科大学）

・ 受賞業績題目：汎用製剤機械を用いた単位操作による次世代型機能性粉体の設計

・ 受 賞 理 由：受賞候補者は、汎用の製造機器を用いて、粉体等の単位操作に様々な学術的アイデアを加えることによって、粉体工学および化学工学を基盤とした実用的な製剤設計を行っている。既存の技術に添加剤の機能性や製造条件等の独自の工夫を組み合わせることによって、これまで知られている技術での改善効果をより高めるとともに、安定化などの更なる効果を付加した新たな技術確立に成功しているものである。例えば、ビーズミルを用いた湿式粉碎によるメカノケミカルな粒子複合化技術と、粉碎助剤の選択によりナノ粒子化にもかかわらず安定性の向上も実現する処方系を選択し、難溶性薬物の溶解性改善について新しい手法を提案している。受賞候補者の研究は多くの製薬会社で展開可能であり、将来に亘って製剤業界の発展への貢献が期待できる。原著論文 93 報のうち、筆頭著者となっているものが 23 報、筆頭著者以外で責任著者となっているものが 11 報に及び、製剤技術分野への貢献度は極めて高いといえる。他学会での受賞歴も多く、製剤機械技術学会では招待講演やシンポジウムの委員として貢献している。

受賞候補者は、製薬会社での創薬研究開発の経験を持ち、理論に裏付けされた実用的な製剤開発研究が期待される若手研究者であることから、第 7 回仲井賞若手研究者奨励賞の受賞者に相応しい人物と考える。

以上